

第2回

信教の自由と人権を守る愛媛シンポジウム

要点

- 2025年2月11日、松山市にて第2回愛媛シンポジウムを開催、約300名が参加
 - ノンフィクションライター窪田順生氏ら3名が登壇し、信教の自由の危機を議論
 - 地方レベルでの信教の自由を守る市民運動が着実に広がりを見せる
-

愛媛信教の自由と人権を守る会が主催する「第2回信教の自由と人権を守る愛媛シンポジウム」が2025年2月11日、松山市内の会場で開催された。建国記念の日に合わせた本集会には約300名が参加し、信教の自由と基本的人権をめぐる諸課題について活発な議論が交わされた。

登壇者による多角的な議論

シンポジウムでは3名の登壇者が講演を行った。ノンフィクションライターの窪田順生氏は、取材経験を踏まえ、信者に対する社会的偏見やメディア報道の問題点を指摘した。元日本基督教団牧師でユーチューバー牧師として活動する岩本龍弘氏は、宗教者の立場から信教の自由の重要性を訴えた。また「信者の人権を守る二世の会」の小嶋希晶代表は、二世信者が直面する人権侵害の実態を報告した。

地方に広がる市民の声

本シンポジウムは、全国各地で展開されている信教の自由を守る運動の一環である。第1回の開催に続き、愛媛の地で継続的に集会が開かれていることは、地方レベルでの市民意識の高まりを示している。UPFは国連NGOとして、信教の自由が普遍的人権であるとの立場から、こうした地域の取り組みを支援している。